

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月8日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 3名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870102088
事業所名	グループホーム つばきの家
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	大野 博宣
自己評価作成日	平成30年7月20日

<p>【事業所理念】医療と介護の連携を基本に利用者が安心して生活できるよう支援する</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 前回の目標達成計画についてその後事業所と地域の交流や関わり等を中心におこなってきましたが、まだ地域との密着とまではいかないのが現状である。今後も、評価後も継続して関わりを求めていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 近くに商業施設や神社がある住宅地に立地している事業所は、医療と介護の連携を理念に掲げ、緊密な医療連携を実施しながら日常の健康管理や医療サービスを提供している。職員は利用者が重度化している中でも、できる限り心身機能を維持しながら、それまでの生活習慣を継続できるよう、きめ細やかで丁寧なケアに努めている。法人内の他事業所と合同で行う納涼祭や運動会は家族の交流の場ともなっており、地域住民を対象に介護予防や防災等をテーマに開催する地域フォーラムは、地域に貢献する事業として定着している。利用者の笑顔を励みに、利用者一人ひとりがその人らしく和やかに過ごせるよう支援に努めている事業所である。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人の生活状況から読み取り行えている	○	/	○	日常の会話や家族からも聞き取る等して、利用者の希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者については、日頃の観察を通して推測したり、表情や反応から汲み取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の行動等を見て行えている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	知人を介してはなかなか上手くできていない	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護計画や申し送りファイル等で把握するよう徹底している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	どうしても思い込み等が出てくる時もあり	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	一部の情報は分かるが、全部は把握できず。	/	/	○	入居時に利用者や家族から情報を収集し、センター方式を活用して本人の生活歴や大切にしてきたこと等、暮らしの情報を詳細に記載している。入居後は高齢者総合機能評価等、多種多様なチェックシートを使用して現状の把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	職員によっては見極めができていく事あり	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	あらゆる状況を見た上で不穏になる時間帯の特定にもなる	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	個々によって職員の関わりが必要な方は特に深くしている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の時間帯にて職員間で共有するようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人にも確認できる場所は行い、職員間で話し合いをする	/	/	○	利用者や家族の意向を大切に考え、心身機能を維持しながらそれまでの生活習慣を継続するために何を必要としているか、生活課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	話し合いは行うも、具体的な意見が出ず。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	検討から具体的な課題達成までできていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ある程度は出来ているが完全にとまではない	/	/	/	サービス担当者会議には計画作成担当者や看護師が参加し、時には家族と話し合いながら共に介護計画を作成している。利用者の思いが暮らしの中で実現できるよう目標を設定し、実施できるよう具体的なサービス内容を記載している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	関係者まではなかなか意見が反映されていない	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来る限り本人の状況を見て行っているが出来ていないことも	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族よりも地域の方との協力体制が不十分	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で個々の必要な部分を共有して徹底している。	/	/	○	介護計画の内容が共有できるよう徹底して伝達周知しており、職員は出勤時に介護計画を確認して、計画に沿ったケアが提供できるよう努めている。センター方式の書式に沿って支援状況を記載し、利用者一人ひとりの暮らしの様子や職員の気づき等を記載しているが、ケアに活かしていないので、介護目標に沿った支援内容や、その結果が記録を振り返った時に分かりやすくなるよう番号表記し、モニタリングに反映できるようにするなど、利用者本位のケアに努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録や第7表にも記録として残し、支援に繋げている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	ある程度の情報は入れているが完全にはいかない	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	記録は行っているが、実際にケアに反映されていない時も	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	しっかりと期間期間で見直し記録として残している	/	/	◎	利用者担当制を敷いており、毎月状況確認を行うとともに、3か月毎に介護計画の見直しを行っている。状態の変化があった場合はその都度、家族や医療関係者を交えて話し合い、現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回必ず見直ししてほぼ行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	随時とはいわず、現状に沿ってというのが難しい	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	定期的には行っていないのが現状	/	/	○	解決する必要がある課題が出た場合には、申し送りの際に随時話し合っている。参加できない職員には、サービス提供内容について気を付ける事柄を記録と口頭で伝え、内容を理解した上でサインし共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	各職員からの意見が基なので、しっかりと聞くようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	日時等が参加できるような工夫があまりできていない	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りに記録と口頭でも理解してもらうようにしている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	話し合いとその都度確認を行いながらしている。	/	/	○	利用者の状態の変化やサービス内容の変更等は、申し送りノートに記載して出勤時に確認し、署名や捺印を行っている。医療情報については、協力医療機関との情報伝達内容を看護師が確認捺印している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ある程度の情報は伝わっているが完全にとまではない	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人にも確認しながら職員間で確認しながら行っている	/	/	/	思いや意向を表明することが難しくなった利用者が増加しているが、洋服や好きな飲み物が選択できるよう支援している。音楽療法時は好きな楽曲を選んで合唱したり、昔の仕事や趣味をもとに思い出を引き出す中で、活きた表情を引き出すよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	本人に出来る限りきめてもらう難しい部分	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	本人が決めるというのが難しい状況もあり	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ある程度個々のペースに合わせているが出来ない部分も	/	/	/	
		e	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	関わりを大事にして行っている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	職員間で状態の共有と話し合いをしつつ行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者に対して言葉遣いは特に注意している。	○	○	○	利用者を目上の人として尊重して接するよう意識し、特に言葉遣いに気をつけている。利用者一人ひとりの状態や性格に合わせて言葉を選び、敬意を払うよう努めている。トイレ誘導時は近くで声かけを行う配慮を行っているが、ドアが開いた状態で介助している場面や、居室入室時にノックや声かけがない場合が見られ、プライバシーの保護について再考する機会を持つことを期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	ケアに対しての声掛け等注意している	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	しっかりと行えている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際は考慮して入っている	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	各職員が理解して行えている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者との関係は近すぎず遠すぎずである	/	/	/	日々行う体操やレクリエーション等、みんなで楽しむ機会が持てるよう支援している。孤立の利用者などもなくいい雰囲気であるが、不穏な状況になりそうな場合は職員が間に入り、トラブルに発展しないよう支援している。隣席に座る利用者に声をかけて気遣う様子が見られるなど、利用者同士いい関係が築けている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	十分に理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	個々の相性等気にかけて行っている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	出来る限り間に入り行っている	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	知りうる情報内での把握はできている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	全部が全部という訳にもいかない状況	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所に出かけるのは現状難しい状況	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	常に環境等も気にしている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天候の事もありなかなか外に出るタイミングが難しい	○	△	△	家族の協力を得て近所のスーパーに買い物に出かけたり、法人で開催する納涼祭や体育祭に参加する機会を設けているが、利用者の重度化が進む中で日常的な外出の機会は少なくなっている。近隣に商店や神社等がある恵まれた環境にあるため、利用者の要介護状態にかかわらず、近隣の散歩等の機会を増やしていくなどの取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現状行えていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の方の状態によっては難しい部分もあり	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族は出来ているが地域の方はできていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々の関わりの中で判断していく	/	/	/	利用者一人ひとりの能力を把握し、残存機能を生かせるよう考慮しながら支援している。レクリエーションの中に脳トレーニングを取り入れたり、ボランティアの協力を得て音楽療法にも取り組んでいる。外来リハビリを継続している利用者もあり、通院支援を行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活の中でのリハビリは行っており継続して行っている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の能力が活かせるよう支援している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	全ての把握は難しく、今現状も検討中である。	/	/	/	庭にある菜園の水やりや洗濯物干しの準備、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ等、役割を持って活動的に過ごせるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	なかなか状況によっては出来ていない時もあり	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中ではなかなかできていないのが現状	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個々の把握はある程度できていると思う	/	/	/	整容の乱れや食べこぼしに気づいた時は、それとなく声をかけて着替えてもらったり、重度な利用者にも毎朝整容や更衣介助を行って共用スペースで過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の好みは尊重するようにしている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人と一緒に考えている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	出来るだけ本人の意思を尊重したいができない部分もあり	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	しっかりと気づきを行えている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	以前はあったが、今はここがというのがあまりない	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	工夫等しているが難しい部分もあり	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	いかに生きる事に重要かを意識している	/	/	/	職員が交代で献立を考え、各ユニットで専任の職員が調理を行い、家庭的料理を楽しめるよう支援している。そうめん流しや芋煮会等季節毎に特別な食事を楽しめるよう工夫しており、苦手な食材は他の物と取り替える等の配慮をしている。利用者は配膳やお盆拭き等できることを手伝っている。食器は軽くて使いやすい物を使用し、職員も一緒に食卓を囲んで穏やかに声かけをしながら食事介助を行っていた。重度な利用者も共に食卓に向かい、それぞれの利用者に適した食事形態で食事を提供していた。食材は農家直売の野菜を購入し、肉と魚を曜日を決めて発注し、色合いを考えながら献立が重ならないよう留意している。利用者の栄養に偏り傾向が見られるので、バランスの取れた栄養が摂れるよう、栄養士等専門家のアドバイスなどを受ける取組みに期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	利用者の状態により全部は難しい	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	実際はしてもらいたいが天候の事も難しいこともあり	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	その時によって好みが変わる時もあり一概に言えず	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	出来る限りは行っているが状態によっては難しい事もあり	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	見た目は重視して行っている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使いやすい物を使っている	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に話しながら関わりを大事にしている	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	状態や形態を考えながら行っている	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	バランスやカロリーまではなかなか難しい	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	細めな関わり等は大事にしている	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	どうしても偏りが見られるがアドバイスが求めれない	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	室温等きにしつつ行っている	/	/	/			

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解して口腔ケアは重視して行っている	/	/	/	各居室に洗面台が設置されているが、毎食後の口腔ケアは共用の洗面所で行い口腔内の状態を把握するよう努めている。今後は、利用者全員の状況を職員全員が把握できるよう努めて欲しい。総義歯の利用者は毎晩義歯を洗浄して清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	全員が全部を把握は出来ていないと思います	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	適切なアドバイスを受けれる環境ではないので難しい	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	きちんと管理するようにしている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	清潔は常に大事にしている	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯科受信も家族等と相談しながら行っている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけ細かい誘導等が大事だと考えている	/	/	/	日中・夜間共にトイレで排泄ができるよう支援しており、現在夜間のみおむつを使用する利用者が1名いるのみである。時間帯や排泄量により排泄用品を選択する際は、職員で話し合いながら決めており、家族にも了解を得ている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しつつ、対応している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ある程度把握はしているが不定期な場合もあり	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレに行くのは基本で行っている	○	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	その都度話し合いし行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	行えている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	家族と話し合いはするも好みや自分で使えるのは難しい	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々によって対応している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	運動等によって腸への働きかけが重要	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	どうしても職員の都合になる時があり	◎	/	○	一般家庭浴槽に週2~3回入浴できるよう支援している。時間帯は職員体制により決めているが、湯の温度は利用者の希望に沿うようにしている。重度の利用者は座シャワーと足浴を併用して2人体制で介助している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	△	くつろぎが難しい時もあり	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は行って頂いてる	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間や環境を代えて行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル等も考慮しながら行っている	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握はしているものの違うパターンもあり	/	/	/	生活のリズムを作り、日中を活動的に過ごすことで夜間安眠ができるよう努めており、睡眠導入剤を常用している利用者は極少数のみである。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動も重要視つつ行っている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	状態の報告だったり生活のリズム等を考えながら行っている	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	時間を作るようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話は出来ても手紙は現状難しい方もあり	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	促すも、支援が迷ってしまう事もあり	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	気兼ねなくは難しい時もあり	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	きちんと折り返し行っている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族からの手紙は難しいこともあり(電話は出来ると思う。)	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解した上で状態を見極めながら行っている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	使う機会をなかなか作ってあげられないのが現状	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	気兼ねなくが出来ていない状況	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	出来る限りはしているが出錆ていない時もあり	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合い書類も記入して頂いている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金の書類を可書いて頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	柔軟な対応を取るようにはしている	◎	/	○	墓参りや病院受診は家族の協力を得て行っているが、困難な場合は職員が付き添うこともある。協力医療機関への外来通院は、その都度職員が送迎を行っている。

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	オープンにはしていないが入れられるようにはしている	◎	○	○	1階と2階のユニットそれぞれに玄関があり、玄関前に植木鉢が置かれている。2階ユニットへは階段と外エレベーターが設置され、直接出入りすることができる。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	出来る限りの雰囲気づくりは行って入る	○	△	○	ユニット中央にダイニングキッチンと中庭に面したソファコーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。掃除が行き届いていて不快な臭い等はなく、調理の音や匂いを感じることができる空間になっている。壁にはひまわりや朝顔のクラフト作品や行事写真、小学生が書いた絵や利用者の作品が飾られるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除もできている	/	/	/		◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	取り入れているもののなかなか臨機応変にはいかない	/	/	/		/	○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲のいい同市の方は特にその他の方はみんなで行う	/	/	/		/	/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	引き戸1つはあるものの、完全とまではいかない	/	/	/		/	/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた物を使う様にはしている	○	/	○	各居室には広めのクローゼットが設置され収納スペースが十分にあるため、簡素な印象を受ける部屋が多いが、中には仏壇を置いて家族で故人を偲ぶ利用者もおり、家族写真や塗り絵等の作品を飾って居心地よくしている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	出来るだけ障害物を置かないようにしている	/	/	/	○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	可能な限りおこなえていると思う	/	/	/	/	車いすの利用者が、自由に移動できるよう障害物になる物を置かないよう工夫されている。また、居室が分りやすくなるよう、利用者一人ひとりに合わせた表示になっている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	馴染みの品は個々によっては置けるが置けない方もあり	/	/	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員が理解し徹底していると思う	◎	◎	◎	職員は施錠も拘束になることを理解しており、各ユニットの玄関は日中施錠されておらず、自由に出入りすることができる。玄関の開閉はセンサーで感知する構造になっているが、職員は見守りを心がけて利用者の安全で自由な暮らしを支えている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族にも理解を得て行っている	/	/	/		/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	鍵はかけないよう所在確認とセンサーにて対応している	/	/	/		/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個々のレベルによっては把握できていない事もあり	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	△	職員によってはサインに気付きにくい部分もあり	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	相談できる関係作りは行えていると思う	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	その都度報告を行っている	○	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	設理し納得されたうえで対応している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度の説明や話し合いは出来ている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供は行えている	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	こまめな訪問が出来ている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	細めに訪院し状態の把握に努めている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護職員と話して行っている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	きちんと医師や看護婦に連絡できるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の状態観察を重視している	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	理解した上で状態の観察も行う	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員同士で服薬と誤薬をしないよう徹底している	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬はお互いの職員同士で確認し合っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態を見ながら行っている	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の報告と意向は話しながら行っている				日常的に緊密な医療連携が実施され、開設当初から多くの利用者の看取りを行っている。入居時に本人と家族に終末期ケアについての意向を確認しており、重度化した場合はその都度医師や看護師を交えて話し合いながら看取りケアを実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	関係機関等含めて話し合いをしている	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	出来る限りに対応はしているが出来る事も限られる				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	きちんと事業所での対応を説明している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人のレベルをみつつ行っている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族に寄り添って行っている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的な勉強会等にて学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練等はあまりできていないが臨機応変に行えることを目指す				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	各自が情報を共有したり勉強会等でスキルアップを図る				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に努めている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	清潔には十分気を付けている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人と家族も含めて行っている	/	/	/	年3回開催する家族会では、会食をしながら懇談をして家族間の交流を図っている。年2回事業所便りを発行して、遠方に在住する家族に利用者の暮らしぶりを伝えたり、必要時はその都度電話で様子を伝えている。事業所の運営面のことや職員の異動等についても、家族に報告するよう努めて欲しい。家族面会時には必ず声をかけるなど、何でも話しやすくなるよう配慮し、利用者の状態を報告するほか、要望等についても聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	良くしようと努力はしているがどう感じられるかは不明	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	出来るだけ家族と接する事を心がけている	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月1回の定期連絡を行い、訪問時には状態説明している。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族の考えも見極めつつ対応している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	良い関係を築けていると思う	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事や利用者の事等は出来ているがその他は出来ず	△	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会は行い、多くの参加を促している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	状態についてお話しした上で対応を理解して頂くようしている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	気軽な空間を目指しているがなかなかできていない事も	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約書とその時にお話しして理解して頂くようになっている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族としっかり話し合いを行う事が大事と思って重点に行う。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	説明して理解して頂く	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議等ではお話ししているも浸透できず	/	△	/	町内会に加入しており、回覧板を通して地域行事の情報を得ているが、参加できていない現状がある。地域との馴染みの関係を作りたいと考えており、市民清掃や防災訓練への参加、散歩途中での挨拶等を通して顔見知りの関係が広がることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	挨拶は出来ているものの、地域への関わりができていない	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	見守りの方はいてもなかなか難しいのが現状	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	たまに寄ったりはあるが完全ではない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶等は行い、気軽にというところまではいかない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	働きかけがまだ足りないと思うところがあり	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	なかなか地域資源を上手く活用できていない	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	取り組みもなかなか行えず。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回ではないが比較的参加はして頂いている	△	/	△	運営推進会議は利用者や家族、民生委員、市職員等の参加を得て開催しているが、参加者が減少傾向にあり、より広く地域住民の参加を募り事業所の理解を深めてもらうと共に、協力関係を構築していくことを期待したい。利用者状況や活動報告を行うほか、避難訓練の検討や外部評価についての報告や季節毎のテーマで話し合っており、運営に活かせるような意見や提案等を出してもらっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	外部からの意見も聞いている	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	日程の調整が難しい部分もあり	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	ファイルにてみる事ができる	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を基に職員間で行っている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	おそらく理解はまだされていないと思います。	x	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修を声かけて少しずつつくようにしている	/	/	/	毎月法人の他事業所と合同で全体ミーティングを行っており、職員が交代で研修の講師を勤め、研鑽を積んでいる。年2回代表者との個人面談を行っており、活動の評価や実績を評価をされることが職員の意欲向上につながっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	外部研修にも行ってもらいたいのが、難しい部分もあり	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	常に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修等の交流を図られている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組まれている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的な勉強会や個々の学習にて行っている。	/	/	/	虐待防止について学習の機会を設け、不適切なケアに気付いた時はその都度指導して注意喚起を行っている。特に新入職員に対しては、どのような行為が虐待に相当するかや、それを発見した時の対応方法や手順等について周知徹底するようにしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	振り返りや話し合いはするものの、機会はそう作れず。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	常に確認しながら行っている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	話し合いをして努めている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	全員が理解して行っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	個々の職員のレベルにあわせて話し合わなければいけない。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	説明をして上で家族との理解を得ていく	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	職員の一部がまだ理解できていない	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	各自相談は受けれるようにしている	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	情報の提供はするものの、それ以上が出来ていない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	周知して対応している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的には難しい部分もあり	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	検討や話し合いを通して行っている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事前予防には努めている	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	その都度対応している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応し報告も行う	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	話し合い何が最善かを考えていく	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	個別に聞く機会を作っている	/	/	○	日常会話の中から利用者の意見や要望を聞き取るように努めており、意思表示が困難な利用者については家族にも聞いている。家族は、面会時や家族会、運営推進会議に参加して意見を述べる事ができている。職員は管理者に意見や提案を言いやすい環境にあると感じており、意見を出し合い利用者本位のケアに努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	機会や意見等は受け付けているより反映していく	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	いつでも相談できるように対応しているが難しい事も	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	職員の意見を反映擦るよう努力はしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	常に意見を聞いて今後にかかしていく	/	/	○	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる				運営推進会議において評価結果や目標達成状況等を報告し協議しており、参加者から意見や提案をもらっている。新たな自己評価項目を職員皆で共有し、1年間の活動を振り返ると共に、さらなるサービスの向上に役立てて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員のスキルアップにもつながる				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組んでいるが達成が難しいことも				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族にも掲示して閲覧できるようにしている	△	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	成果は確認して検討している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	原子力はまだ行っていない				避難訓練実施状況について話し合う機会を設けているが、地区の防災訓練に参加したことがなく、参加を検討している。地域との合同訓練を通して地区防災士等と話し合いの場を設けるなど、地域とのつながりを深める機会を持ち、協力関係が強固になることに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	想定して行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	しっかりと外部の業者に任せて行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	協力体制があまり築けていない	△	△	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域への発信ができていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	事業所からの発信は難しい部分もあり				毎年法人全体で地域フォーラムを開催し、多くの地域住民が参加している。フォーラムの機会を通して事業所をPRするなど、広報により力を入れ地域に頼られる事業所となることに期待したい。地域包括支援センター等関係機関主催のイベントへの参加はあるが不十分なので、他事業所や関係機関等との連携を図り、地域イベント等を開催するなどの取組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	なかなか支援は行っていないのが現状		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	憩いの場として活用ができていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	協力して対応している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	たまに交流はあったりするものの、まだ不十分			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月8日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 3名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870102088
事業所名	グループホーム つばきの家
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	大野 博宣
自己評価作成日	30年 7月 20日

<p>【事業所理念】医療と介護の連携により利用者が安心して生活できるように支援する</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 前回の目標達成計画についてその後事業所と地域の交流や関わり等を中心におこなってきましたが、まだ地域との密着とまではいかないのが現状である。今後も、評価後も継続して関わりを求めていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 近くに商業施設や神社がある住宅地に立地している事業所は、医療と介護の連携を理念に掲げ、緊密な医療連携を実施しながら日常の健康管理や医療サービスを提供している。職員は利用者が重度化している中でも、できる限り心身機能を維持しながら、それまでの生活習慣を継続できるよう、きめ細やかで丁寧なケアに努めている。法人内の他事業所と合同で行う納涼祭や運動会は家族の交流の場ともなっており、地域住民を対象に介護予防や防災等をテーマに開催する地域フォーラムは、地域に貢献する事業として定着している。利用者の笑顔を励みに、利用者一人ひとりがその人らしく和やかに過ごせるよう支援に努めている事業所である。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人の生活状況から読み取り行えている	○	/	○	日常の会話や家族からも聞き取る等して、利用者の希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者については、日頃の観察を通して推測したり、表情や反応から汲み取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の行動等を見て行えている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	知人を介してはなかなか上手くできていない	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護計画や申し送りファイル等で把握するよう徹底している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	どうしても思い込み等が出てくる時もあり	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	一部の情報は分かるが、全部は把握できず。	/	/	○	入居時に利用者や家族から情報を収集し、センター方式を活用して本人の生活歴や大切にしてきたこと等、暮らしの情報を詳細に記載している。入居後は高齢者総合機能評価等、多種多様なチェックシートを使用して現状の把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	職員によっては見極めができていく事あり	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	あらゆる状況を見た上で不穏になる時間帯の特定にもなる	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	個々によって職員の関わりが必要な方は特に深くしている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の時間帯にて職員間で共有するようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人にも確認できる場所は行い、職員間で話し合いをする	/	/	○	利用者や家族の意向を大切に考え、心身機能を維持しながらそれまでの生活習慣を継続するために何を必要としているか、生活課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	話し合いは行っても、具体的な意見が出ず。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	検討から具体的な課題達成までできていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ある程度は出来ているが完全にとまではない	/	/	/	サービス担当者会議には計画作成担当者や看護師が参加し、時には家族と話し合いながら共に介護計画を作成している。利用者の思いが暮らしの中で実現できるよう目標を設定し、実施できるよう具体的なサービス内容を記載している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	関係者まではなかなか意見が反映されていない	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来る限り本人の状況を見て行っているが出来ていないことも	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族よりも地域の方との協力体制が不十分	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で個々の必要な部分を共有して徹底している。	/	/	○	介護計画の内容が共有できるよう徹底して伝達周知しており、職員は出勤時に介護計画を確認して、計画に沿ったケアが提供できるよう努めている。センター方式の書式に沿って支援状況を記載し、利用者一人ひとりの暮らしの様子や職員の気づき等を記載しているが、ケアに活かしていないので、介護目標に沿った支援内容や、その結果が記録を振り返った時に分かりやすくなるよう番号表記し、モニタリングに反映できるようにするなど、利用者本位のケアに努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録や第7表にも記録として残し、支援に繋げている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	ある程度の情報は入れているが完全にはいかない	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	記録は行っているが、実際にケアに反映されていない時も	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	しっかりと期間期間で見直し記録として残している	/	/	◎	利用者担当制を敷いており、毎月状況確認を行うとともに、3か月毎に介護計画の見直しを行っている。状態の変化があった場合はその都度、家族や医療関係者を交えて話し合い、現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回必ず見直ししてほぼ行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	随時とはいわず、現状に沿ってというのが難しい	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	定期的には行っていないのが現状	/	/	○	解決する必要がある課題が出た場合には、申し送りの際に随時話し合っている。参加できない職員には、サービス提供内容について気を付ける事柄を記録と口頭で伝え、内容を理解した上でサインし共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	各職員からの意見が基なので、しっかりと聞くようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	日時等が参加できるような工夫があまりできていない	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りに記録と口頭でも理解してもらうようにしている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	話し合いとその都度確認を行いながらしている。	/	/	○	利用者の状態の変化やサービス内容の変更等は、申し送りノートに記載して出勤時に確認し、署名や捺印を行っている。医療情報については、協力医療機関との情報伝達内容を看護師が確認捺印している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ある程度の情報は伝わっているが完全にとまではない	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人にも確認しながら職員間で確認しながら行っている	/	/	/	思いや意向を表明することが難しくなった利用者が増加しているが、洋服や好きな飲み物が選択できるよう支援している。音楽療法時は好きな楽曲を選んで合唱したり、昔の仕事や趣味をもとに思い出を引き出す中で、活きた表情を引き出すよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	本人に出来る限りきめてもらう難しい部分	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	本人が決めるというのが難しい状況もあり	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ある程度個々のペースに合わせているが出来ない部分も	/	/	/	
		e	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	関わりを大事にして行っている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	職員間で状態の共有と話し合いをしつつ行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者に対して言葉遣いは特に注意している。	○	○	○	利用者を目上の人として尊重して接するよう意識し、特に言葉遣いに気をつけている。利用者一人ひとりの状態や性格に合わせて言葉を選び、敬意を払うよう努めている。トイレ誘導時は近くで声かけを行う配慮を行っているが、ドアが開いた状態で介助している場面や、居室入室時にノックや声かけがない場合が見られ、プライバシーの保護について再考する機会を持つことを期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	ケアに対しての声掛け等注意している	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	しっかりと行えている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際は考慮して入っている	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	各職員が理解して行えている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者との関係は近すぎず遠すぎずである	/	/	/	日々行う体操やレクリエーション等、みんなで楽しむ機会が持てるよう支援している。孤立の利用者などもなくいい雰囲気であるが、不穏な状況になりそうな場合は職員が間に入り、トラブルに発展しないよう支援している。隣席に座る利用者に声をかけて気遣う様子が見られるなど、利用者同士いい関係が築けている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	十分に理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	個々の相性等気にかけて行っている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	出来る限り間に入り行っている	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	知りうる情報内での把握はできている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	全部が全部という訳にもいかない状況	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所に出かけるのは現状難しい状況	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	常に環境等も気にしている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天候の事もありなかなか外に出るタイミングが難しい	○	△	△	家族の協力を得て近所のスーパーに買い物に出かけたり、法人で開催する納涼祭や体育祭に参加する機会を設けているが、利用者の重度化が進む中で日常的な外出の機会は少なくなっている。近隣に商店や神社等がある恵まれた環境にあるため、利用者の要介護状態にかかわらず、近隣の散歩等の機会を増やしていくなどの取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現状行っていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の方の状態によっては難しい部分もあり	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族は出来ているが地域の方はできていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々の関わりの中で判断していく	/	/	/	利用者一人ひとりの能力を把握し、残存機能を生かせるよう考慮しながら支援している。レクリエーションの中に脳トレーニングを取り入れたり、ボランティアの協力を得て音楽療法にも取り組んでいる。外来リハビリを継続している利用者もあり、通院支援を行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活の中でのリハビリは行っており継続して行っている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の能力が活かせるよう支援している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	全ての把握は難しく、今現状も検討中である。	/	/	/	庭にある菜園の水やりや洗濯物干しの準備、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ等、役割を持って活動的に過ごせるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	なかなか状況によっては出来ていない時もあり	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中ではなかなかできていないのが現状	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個々の把握はある程度できていると思う	/	/	/	整容の乱れや食べこぼしに気づいた時は、それとなく声をかけて着替えてもらったり、重度な利用者にも毎朝整容や更衣介助を行って共用スペースで過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人の好みは尊重するようにしている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人と一緒に考えている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	出来るだけ本人の意思を尊重したいができない部分もあり	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	しっかりと気づきを行えている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	以前はあつたが、今はここがというのがあまりない	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	工夫等しているが難しい部分もあり	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	いかに生きる事に重要かを意識している	/	/	/	職員が交代で献立を考え、各ユニットで専任の職員が調理を行い、家庭的料理を楽しめるよう支援している。そうめん流しや芋煮会等季節毎に特別な食事を楽しめるよう工夫しており、苦手な食材は他の物と取り替える等の配慮をしている。利用者は配膳やお盆拭き等できることを手伝っている。食器は軽くて使いやすい物を使用し、職員も一緒に食卓を囲んで穏やかに声かけをしながら食事介助を行っていた。重度な利用者も共に食卓に向かい、それぞれの利用者に適した食事形態で食事を提供していた。食材は農家直売の野菜を購入し、肉と魚を曜日を決めて発注し、色合いを考えながら献立が重ならないよう留意している。利用者の栄養に偏り傾向が見られるので、バランスの取れた栄養が摂れるよう、栄養士等専門家のアドバイスなどを受ける取組みに期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	利用者の状態により全部は難しい	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	実際はしてもらいたいが天候の事も難しいこともあり	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	その時によって好みが変わる時もあり一概に言えず	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	出来る限りは行っているが状態によっては難しい事もあり	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	見た目は重視して行っている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使いやすい物を使っている	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に話しながら関わりを大事にしている	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	状態や形態を考えながら行っている	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	バランスやカロリーまではなかなか難しい	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	細めな関わり等は大事にしている	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	どうしても偏りが見られるがアドバイスが求めれない	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	室温等きにしつつ行っている	/	/	/			

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解して口腔ケアは重視して行っている	/	/	/	各居室に洗面台が設置されているが、毎食後の口腔ケアは共用の洗面所で行い口腔内の状態を把握するよう努めている。今後は、利用者全員の状況を職員全員が把握できるよう努めて欲しい。総義歯の利用者は毎晩義歯を洗浄して清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	全員が全部を把握は出来ていないと思います	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	適切なアドバイスを受けれる環境ではないので難しい	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	きちんと管理するようにしている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	清潔は常に大事にしている	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯科受信も家族等と相談しながら行っている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけ細かい誘導等が大事だと考えている	/	/	/	日中・夜間共にトイレで排泄ができるよう支援しており、現在夜間のみおむつを使用する利用者が1名いるのみである。時間帯や排泄量により排泄用品を選択する際は、職員で話し合いながら決めており、家族にも了解を得ている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しつつ、対応している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ある程度把握はしているが不定期な場合もあり	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレに行くのは基本で行っている	○	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	その都度話し合いし行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	行えている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	家族と話し合いはするも好みや自分で使えるのは難しい	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々によって対応している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	運動等によって腸への働きかけが重要	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	どうしても職員の都合になる時があり	◎	/	○	一般家庭浴槽に週2~3回入浴できるよう支援している。時間帯は職員体制により決めているが、湯の温度は利用者の希望に沿うようにしている。重度の利用者は座シャワーと足浴を併用して2人体制で介助している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	△	くつろぎが難しい時もあり	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は行って頂いてる	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間や環境を代えて行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル等も考慮しながら行っている	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握はしているものの違うパターンもあり	/	/	/	生活のリズムを作り、日中を活動的に過ごすことで夜間安眠ができるよう努めており、睡眠導入剤を常用している利用者は極少数のみである。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動も重要視つつ行っている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	状態の報告だったり生活のリズム等を考えながら行っている	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	時間を作るようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話は出来ても手紙は現状難しい方もあり	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	促すも、支援が迷ってしまう事もあり	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	気兼ねなくは難しい時もあり	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	きちんと折り返し行っている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族からの手紙は難しいこともあり(電話は出来ると思う。)	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解した上で状態を見極めながら行っている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	使う機会をなかなか作ってあげられないのが現状	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	気兼ねなくが出来ていない状況	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	出来る限りはしているが出錆ていない時もあり	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合い書類も記入して頂いている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金の書類を可書いて頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	柔軟な対応を取るようにはしている	◎	/	○	墓参りや病院受診は家族の協力を得て行っているが、困難な場合は職員が付き添うこともある。協力医療機関への外来通院は、その都度職員が送迎を行っている。

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	オープンにはしていないが入れるようにはしている	◎	○	○	1階と2階のユニットそれぞれに玄関があり、玄関前に植木鉢が置かれている。2階ユニットへは階段と外エレベーターが設置され、直接出入りすることができる。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	出来る限りの雰囲気づくりは行って入る	○	△	○	ユニット中央にダイニングキッチンと中庭に面したソファコーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。掃除が行き届いていて不快な臭い等はなく、調理の音や匂いを感じることができる空間になっている。壁にはひまわりや朝顔のクラフト作品や行事写真、小学生が書いた絵や利用者の作品が飾られるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除もできている	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	取り入れているもののなかなか臨機応変にはいかない	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲のいい同市の方は特にその他の方はみんなで行う	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	引き戸1つはあるものの、完全とまではいかない	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	△	使い慣れた物を使う様にはしている	○	/	○	各居室には広めのクローゼットが設置され収納スペースが十分にあるため、簡素な印象を受ける部屋が多いが、中には仏壇を置いて家族で故人を偲ぶ利用者もおり、家族写真や塗り絵等の作品を飾って居心地よくしている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	出来るだけ障害物を置かないようにしている	/	/	/	○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	可能な限りおこなえていると思う	/	/	/	車いすの利用者が、自由に移動できるよう障害物になる物を置かないよう工夫されている。また、居室が分りやすくなるよう、利用者一人ひとりに合わせた表示になっている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	馴染みの品は個々によっては置けるが置けない方もあり	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	職員が理解し徹底していると思う	◎	◎	◎		職員は施錠も拘束になることを理解しており、各ユニットの玄関は日中施錠されておらず、自由に出入りすることができる。玄関の開閉はセンサーで感知する構造になっているが、職員は見守りを心がけて利用者の安全で自由な暮らしを支えている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族にも理解を得て行っている	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	鍵はかけないよう所在確認とセンサーにて対応している	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個々のレベルによっては把握できていない事もあり	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	職員によってはサインに気付きにくい部分もあり	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	相談できる関係作りは行えていると思う	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	△	その都度報告を行っている	○	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	設理し納得されたうえで対応している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	△	その都度の説明や話し合いはは出来ている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供は行えている	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	こまめな訪問が出来ている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	細めに訪院し状態の把握に努めている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	△	看護職員と話して行っている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	きちんと医師や看護婦に連絡できるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の状態観察を重視している	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	理解した上で状態の観察も行う	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	職員同士で服薬と誤薬をしないよう徹底している	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬はお互いの職員同士で確認し合っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態を見ながら行っている	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の報告と意向は話しながら行っている	/	/	/	日常的に緊密な医療連携が実施され、開設当初から多くの利用者の看取りを行っている。入居時に本人と家族に終末期ケアについての意向を確認しており、重度化した場合はその都度医師や看護師を交えて話し合いながら看取りケアを実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	関係機関等含めて話し合いをしている	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	出来る限りに対応はしているが出来る事も限られる	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	きちんと事業所での対応を説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人のレベルをみつつ行っている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族に寄り添って行っている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	定期的な勉強会等にて学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	訓練等はあまりできていないが臨機応変に行えることを目指す	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	各自が情報を共有したり勉強会等でスキルアップを図る	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に努めている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	清潔には十分気を付けている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人と家族も含めて行っている				年3回開催する家族会では、会食をしながら懇談をして家族間の交流を図っている。年2回事業所便りを発行して、遠方に在住する家族に利用者の暮らしぶりを伝えたり、必要時はその都度電話で様子を伝えている。事業所の運営面のことや職員の異動等についても、家族に報告するよう努めて欲しい。家族面会時には必ず声をかけるなど、何でも話しやすくなるよう配慮し、利用者の状態を報告するほか、要望等についても聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	良くしようと努力はしているがどう感じられるかは不明				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	出来るだけ家族と接する事を心がけている		○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月1回の定期連絡を行い、訪問時には状態説明している。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の考えも見極めつつ対応している				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	良い関係を築けていると思う				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事や利用者の事等は出来ているがその他は出来ず		△	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会は行い、多くの参加を促している。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	状態についてお話しした上で対応を理解して頂くようしている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	気軽な空間を目指しているがなかなかできていない事も			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約書とその時にお話しして理解して頂くようになっている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族としっかり話し合いを行う事が大事と思って重点に行う。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	説明して理解して頂く				

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議等ではお話ししているも浸透できず	/	△	/	町内会に加入しており、回覧板を通して地域行事の情報を得ているが、参加できていない現状がある。地域との馴染みの関係を作りたいと考えており、市民清掃や防災訓練への参加、散歩途中での挨拶等を通して顔見知りの関係が広がることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	挨拶は出来ているものの、地域への関わりができていない	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	見守りの方はいてもなかなか難しいのが現状	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	たまに寄ったりはあるが完全ではない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶等は行い、気軽にというところまではいかない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	働きかけがまだ足りないと思うところがあり	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	なかんか地域資源を上手く活用できていない	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	取り組みもなかなか行えず。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回ではないが比較的参加はして頂いている	△	/	△	運営推進会議は利用者や家族、民生委員、市職員等の参加を得て開催しているが、参加者が減少傾向にあり、より広く地域住民の参加を募り事業所の理解を深めてもらうと共に、協力関係を構築していくことを期待したい。利用者状況や活動報告を行うほか、避難訓練の検討や外部評価についての報告や季節毎のテーマで話し合っており、運営に活かせるような意見や提案等を出してもらっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	外部からの意見も聞いている	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	日程の調整が難しい部分もあり	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	ファイルにてみる事ができる	/	/	/	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を基に職員間で行っている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	おそらく理解はまだされていないと思います。	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修を声かけて少しずつつくようにしている				毎月法人の他事業所と合同で全体ミーティングを行っており、職員が交代で研修の講師を勤め、研鑽を積んでいる。年2回代表者との個人面談を行っており、活動の評価や実績を評価をされることが職員の意欲向上につながっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	外部研修にも行ってもらいたいのが、難しい部分もあり				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	常に努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修等の交流を図られている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組まれている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的な勉強会や個々の学習にて行っている。				虐待防止について学習の機会を設け、不適切なケアに気付いた時はその都度指導して注意喚起を行っている。特に新入職員に対しては、どのような行為が虐待に相当するかや、それを発見した時の対応方法や手順等について周知徹底するようにしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	振り返りや話し合いはするものの、機会はそう作れず。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	常に確認しながら行っている				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	話し合いをして努めている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	全員が理解して行っている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	個々の職員のレベルにあわせて話し合わなければいけない。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	説明をして上で家族との理解を得ていく				

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	職員の一部がまだ理解できていない	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	各自相談は受けれるようにしている	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	情報の提供はするものの、それ以上が出来ていない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	周知して対応している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的には難しい部分もあり	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	検討や話し合いを通して行っている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事前予防には努めている	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	その都度対応している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応し報告も行う	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	話し合い何が最善かを考えていく	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	個別に聞く機会を作っている	/	/	○	日常会話の中から利用者の意見や要望を聞き取るように努めており、意思表示が困難な利用者については家族にも聞いている。家族は、面会時や家族会、運営推進会議に参加して意見を述べる事ができている。職員は管理者に意見や提案を言いやすい環境にあると感じており、意見を出し合い利用者本位のケアに努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	機会や意見等は受け付けているより反映していく	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	いつでも相談できるように対応しているが難しい事も	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員の意見を反映擦るよう努力はしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	常に意見を聞いて今後にかかしていく	/	/	○	

愛媛県グループホームつばきの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる				運営推進会議において評価結果や目標達成状況等を報告し協議しており、参加者から意見や提案をもらっている。新たな自己評価項目を職員皆で共有し、1年間の活動を振り返ると共に、さらなるサービスの向上に役立てて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員のスキルアップにもつながる				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組んでいるが達成が難しいことも				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族にも掲示して閲覧できるようにしている	△	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	成果は確認して検討している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	原子力はまだ行っていない				避難訓練実施状況について話し合う機会を設けているが、地区の防災訓練に参加したことがなく、参加を検討している。地域との合同訓練を通して地区防災士等と話し合いの場を設けるなど、地域とのつながりを深める機会を持ち、協力関係が強固になることに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	想定して行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	しっかりと外部の業者にて行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	協力体制があまり築けていない	△	△	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域への発信ができていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	事業所からの発信は難しい部分もあり				毎年法人全体で地域フォーラムを開催し、多くの地域住民が参加している。フォーラムの機会を通して事業所をPRするなど、広報により力を入れ地域に頼られる事業所となることに期待したい。地域包括支援センター等関係機関主催のイベントへの参加はあるが不十分なので、他事業所や関係機関等との連携を図り、地域イベント等を開催するなどの取組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	なかなか支援は行っていないのが現状		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	憩いの場として活用ができていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	協力して対応している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	たまに交流はあったりするものの、まだ不十分			△	